

資料. 3

平成24年度事業計画及び予算（案）について

今後の公共交通について

「地域公共交通総合連携計画」の目標として以下の内容を示している。

佐渡市の実情に応じた

「持続可能な公共交通システム」の実現

【1】市内を結ぶ公共交通ネットワークの整備

【2】「持続可能な公共交通」を実現する戦略的な運行

【1】市内を結ぶ公共交通ネットワークの整備

人口集積地と、旧市町村の市街地部など公共公益サービス拠点地区、通院や通勤・通学の主な行き先などの拠点間を結ぶ公共交通ネットワークを整備する。

市街地においては、マイカーからの交通転換と収益増加をめざし、戦略的な運行頻度や料金などとした、利便性の高い公共交通システムを構築する。

郊外部においては、高齢者・学生などの交通弱者の生活支援を目指し、需要に見合った公共交通システムを提供する。

【2】「持続可能な公共交通」を実現する戦略的な運行

【公共交通の利便性の向上】

- ・バスの運行情報の提供や、ICカード等の導入により、利用者の公共交通の利便性の向上を図る。

【公共交通の魅力の向上】

- ・特徴的な車両の運行や、展示によるイベントの実施により、公共交通の魅力の向上を図る。

【公共交通の利用促進】

- ・地域へ公共交通の利用状況等を提供し、住民の公共交通への意識啓発を行うとともに、パーク&ライドやノーマイカーデー等の実施を検討し利用促進を図る。

【観光客の交通手段の利便性の向上】

- ・島民の生活支援を基本としつつも、主要観光地へのアクセスなど観光客等の利用も考慮した公共交通システムを構築する。

【地域の活性化】

- ・公共交通による商業振興の活性化、高齢者・障がい者の外出支援など地域の活性化を図る。

1. これまでの実験結果

- これまでの実験の結果、公共交通の利用に対する効果として、「高齢者」に対する効果
が大きい状況である。利用者の構成と同様と考えられるが、次いで、「高校生」、社会人
の順番である。社会人の通勤・退勤時に公共交通を利用させるのは、少し難しい状況で
ある。

(1) 公共交通の利用者別の検証結果

■ 高齢者の検証結果

【高齢者運賃割引サービス、乗換えサービス】

- 運賃を割引くことは、高齢者の外出支援及び公共交通の利用促進に寄与している。
しかし、高齢者の外出支援をしているが、割引による運行費用負担が大きくなる可能
性が高い。

■ 高校生の検証結果

【小南線の直通便の効果】

- 直通便を設けることにより、利便性が上がり、利用者もある。

【夏休みの運賃割引】

- 運賃割引は、その効果は低い状況であり、今後検討する必要がある。

■ 通勤者の検証結果

【ノーマイカーデーの効果】

- 運賃割引を実施しても、通勤・退勤時の動きに「バス」が対応できていない状況であ
る。一方、ノーマイカーデーとしての効果はあるため、今後は、健康・環境面への配
慮を主体としながら公共交通の利用促進を図る。

■ 観光客の検証結果

【観光二次交通の効果】

- 観光二次交通の利用者は、平成 21 年と比較すると増加の傾向にあり、その利用者の多
くは、「佐渡金山」、「トキの森公園」であり、その他は大きな利用は見られない。

(2) 運行方法に関する検証

■病院乗り入れに対する検証結果

【両津病院の乗り入れ効果】

- 利用者の割合はほとんど変わらない。

【佐渡病院への直通便の効果】

- 割引券の使用方法が変わったこともあり、佐渡病院前で乗降する利用者の割合が増加した。

■乗り換えに対する検証結果

【乗り継ぎ券の設定効果】

- 乗り継ぎの仕方（接続時間、運賃など）により、問題はないと考えられる。

■集落への乗り入れに対する検証結果

【度津線、宿根木線の乗り入れ効果】

- 毎日の運行や全便乗り入れでなくても、利用者が増加しており、公共交通空白地区の運行が定着してきている。

2. 今後の公共交通の考え方

(1) 利用者の傾向

【高齢者の移動需要について】

- 現在の高齢者の移動需要の方向は、金井（佐渡病院等）に集中している。

【高校生の移動需要について】

- 毎日の利用がある高校生は、学校の所在地である5か所に向かっている。

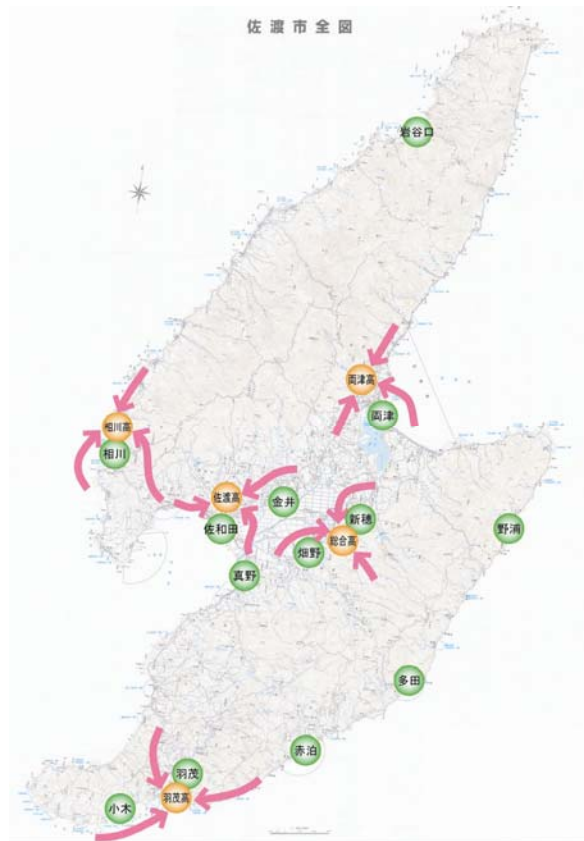
【その他の移動需要について】

- 通勤者、観光客等については、目的地が分散している。

高齢者の移動需要の方向



高校生の移動需要の傾向



(2) 時間帯別の利用傾向

1) 朝の時間帯（概ね 7 時～ 9 時）

【高齢者の移動需要について】

- 病院の診察開始時間に合わせ、公共交通を利用している。診察時間に合わせているため、利用者数が集中している時間帯である。

【高校生の移動需要について】

- 毎日の利用がある高校生は、始業開始時間に合わせ移動するため、利用者数も多い時間帯である。

【その他の移動需要について】

- 通勤者は高校生同様、始業開始時間に合わせ移動するため、利用者数も多い時間帯である。

2) 昼の時間帯（概ね 11 時～14 時）

【高齢者の移動需要について】

- 病院の診察終了に合わせ、帰宅するため、帰宅時刻が分散する。

【高校生の移動需要について】

- 学校に滞在している時間帯なので、移動需要は少ない。

【その他の移動需要について】

- 通勤者は高校生同様、移動需要は少ない。

3) 夕方の時間帯（概ね 15 時～19 時）

【高齢者の移動需要について】

- 病院の診察終了、買い物等を行いながら、帰宅するため、帰宅時刻が分散する。

【高校生の移動需要について】

- 学校の下校は、課外活動や塾等に通うなど、帰宅時刻が分散する。

【その他の移動需要について】

- 通勤者は高校生同様、始業開始時間に合わせ移動するため、利用者数も多い時間帯である。

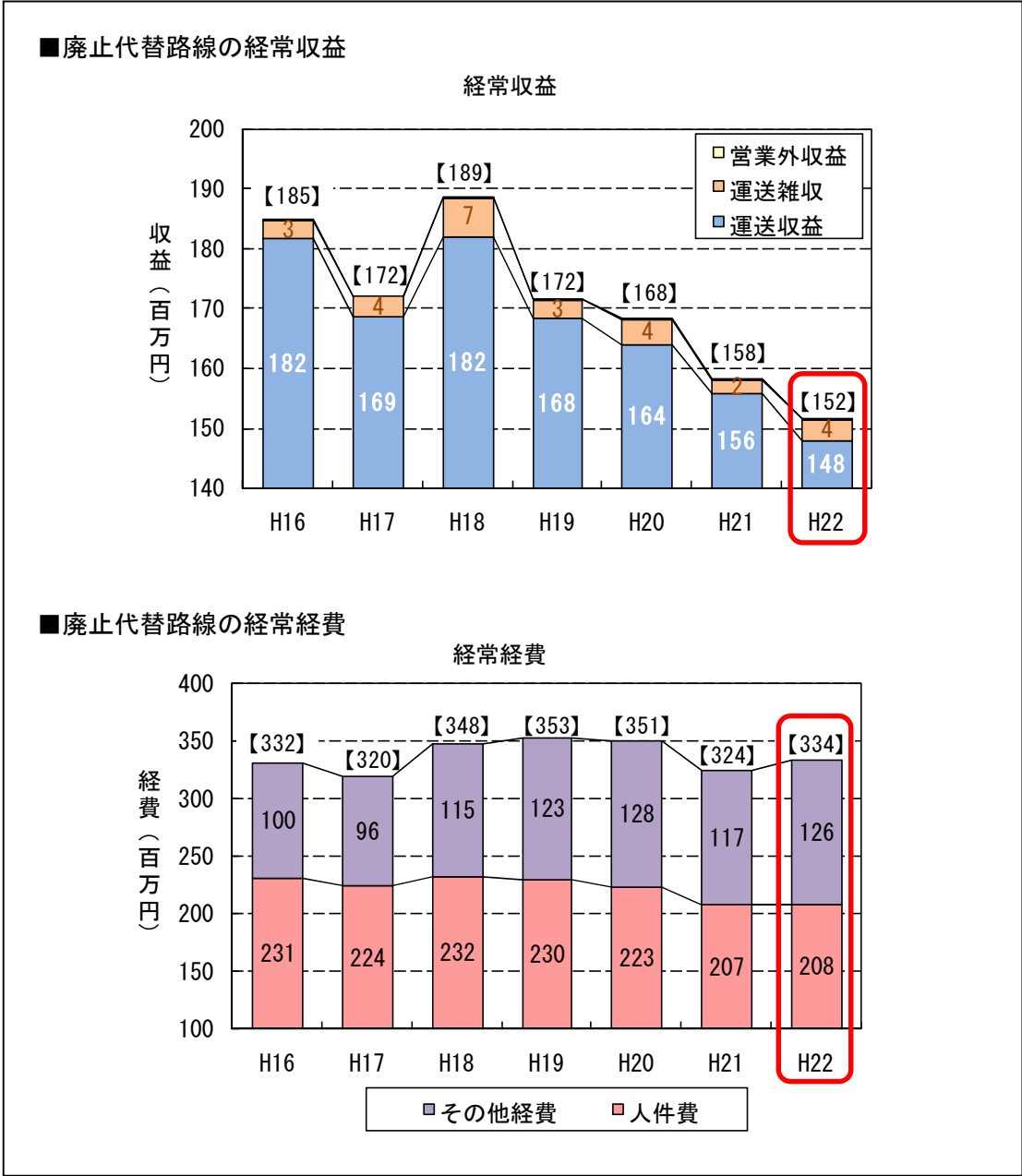
4) 利用時間帯別の傾向

時間帯別の利用状況をまとめると、以下のようになる。

	朝	昼	夜
高齢者	利用者多い・集中	利用者多い・分散	利用者少ない・分散
高校生	利用者多い・集中	利用者少ない・分散	利用者多い・分散
その他	利用者多い・集中	利用者少ない・分散	利用者多い・分散

参考：現在の廃止代替路線の収支状況

●廃止代替路線（佐渡市等の補助のもと運行している路線）の経常収益は年々減少しており、平成22年において約1億5200万円となっている。一方、これまで、施策を展開しつつ、経費の節減に努めてきたが、平成22年において経常経費の総額が約3億3400万円となっている。よって、平成22年において、約1億8200万円の補助となっている。



(3) 短期・中期の目標設定

●連携計画における新しい公共交通のイメージに近づけるため、これまでの検討結果をもとに、短期・中期の目標を設定する。

種類		短期・中期の運行の目標		連携計画の公共交通のイメージ
		短期【平成24年～】	中期【平成27年～】	【目標：平成30年度】
地区間路線	幹線 [事業性：高]	<p>【公共交通の利便性向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院に直通で行く、または病院を経由する路線バスを運行する。 <p>◇ダイヤ：支線より高頻度運行 ◇備考：生活交通の確保</p>	<p>【収益の増加策の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の増加施策を行いながら、収益増加を目指した運行を行う。 <p>◇ダイヤ：支線より高頻度運行 ◇備考：生活交通の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡市内の旧市町村の市街地部を連携し、骨格的な路線とする。利用者の増加施策を行いながら、収益増加を目指した戦略的な運行を行う。 <p>◇ダイヤ：支線より高頻度運行 ◇料 金：概ね200円～500円 ◇備考：黒字目標</p>
	支線 [事業性：低]	<p>【生活交通の維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院に直通で行けるバスの運行や、乗換えをしても短時間で行くことができる乗換え便の運行を目指し、生活交通の維持を行う。 ・また、利用状況に応じて予約型の運行等による生活交通の維持の可能性も検討する。 <p>◇ダイヤ：毎日の定時運行(又は場合によって予約型の運行) 頻度は需要に応じて設定 ◇料 金：幹線と同額(又は地域により設定) ◇備考：生活交通の維持を優先し、場合によって観光客の交通手段を考慮する。</p>	<p>【生活交通の維持と観光客の交通の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活交通の維持を図った後、観光客の利用も合わせた利用を目指す。 <p>◇ダイヤ：毎日の定時運行(又は場合によって予約型の運行) 頻度は需要に応じて設定 ◇料 金：幹線と同額(又は地域により設定) ◇備考：生活交通を維持し、場合によって観光客の交通手段を考慮する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線を補完するものとして位置づける。(旧市町村の中心部間、観光地、港などをつなぐ路線) ・観光地と主要地点をつなぎ、観光客も利用できるものとする。 <p>◇ダイヤ：毎日の定時運行 頻度は需要に応じて設定 ◇料 金：幹線と同額(又は地域により設定) ◇備考：生活交通の確保と観光客の交通</p>
地区内路線 [事業性：低]	<p>【公共交通の新規需要の開拓】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通空白地区において、公共交通の運行の可能性を探りながら、公共交通需要の掘り起こしを行う。 ・運行は、地区内から最寄の幹線・支線までの交通サービスを地域の実情に合わせて提供し、幹線・支線の公共交通の需要の掘り起こしも行う。 <p>◇ダイヤ：定時運行(又は予約型の運行) 運行日、頻度は需要に応じて設定 ◇料 金：地域により設定 ◇備考：生活交通の確保 観光客の利用を主としない</p>	<p>【公共交通空白地区の削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内(各集落)における公共交通空白地区の削減を目指す。 <p>◇ダイヤ：定時運行(又は予約型の運行) 運行日、頻度は需要に応じて設定 ◇料 金：地域により設定 ◇備考：生活交通の確保 観光客の利用を主としない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内から、最寄の幹線・支線までの交通サービスを地域の実情に合わせて提供する。 <p>◇ダイヤ：定時運行(又は予約型の運行) 運行日、頻度は需要に応じて設定 ◇料 金：地域により設定 ◇備考：生活交通の確保 観光客の利用を主としない</p>	
港アクセス線	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡航路利用者(主に観光客)の利便性確保のために港から主要地点までの運行 <p>◇ダイヤ：佐渡航路便に対応 ◇料 金：幹線・支線の利用時と同程度 ◇事業性：観光客の移動手段の支援</p>			

(3) 目標の実現に向けての施策

■ 運行方法の見直し

● 時間帯別運行の検討

- ・現状を踏まえ、運行時間帯別に運行方法を変更し、効率的な運行を目指す。

● 直通便・乗換え便の運行

- ・路線バスの利用者の多くが高齢者であること、そのため、多くの方の目的地である佐渡総合病院、佐渡市役所が集積している「金井」に行きやすくすることにより、利用者の利便性向上を図る。

● 待合環境の整備

- ・乗換え便を運行することにより、乗換え待ちをする利用者に対して、風雨をしのぐ上屋の整備などの待合環境の整備を行う。

● 予約型運行（デマンド運行）の検討

- ・利用者数の少ない路線については、利用状況やエリアを考慮し、定期路線から予約型運行（デマンド運行）に切り替えの検討を行う。

■ 新規需要の開拓

● 公共交通空白地区での運行

- ・公共交通空白地区において、地域の実情に合わせた公共交通の運行に取り組み、新規公共交通需要の開拓を行う。

● ノーマイカーデーによる意識啓発

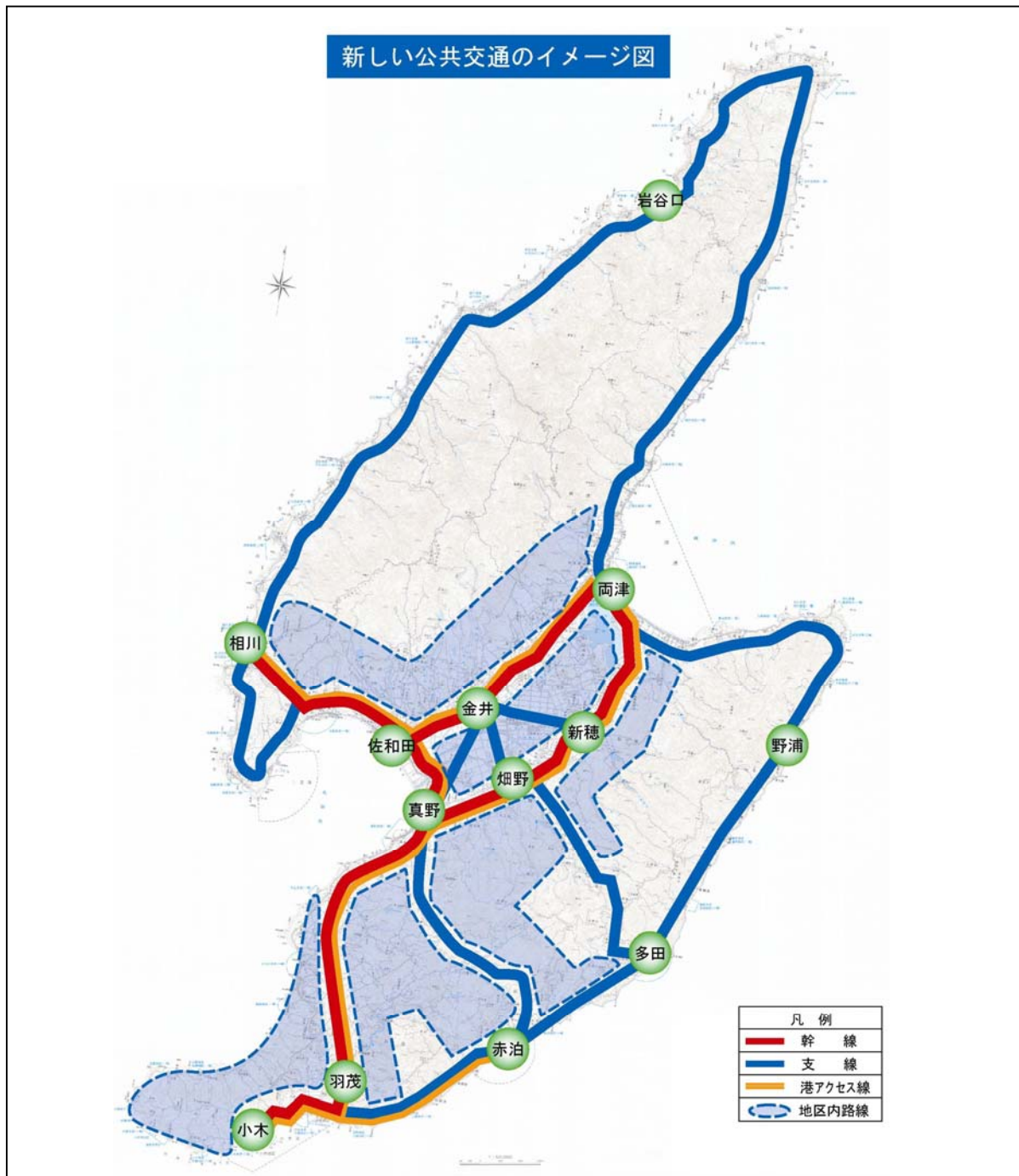
- ・利用者数が減少してきていることを受けて、ノーマイカーデー等の継続実施などによる新規公共交通需要の開拓に取り組む。

● 地域の協力による公共交通の運行

- ・公共交通に関心を持ってもらうため、地域の協力を得ながら、公共交通の運行を行う。

● 地域住民の運営への参画

- ・公共交通の需要が少ない地域において、路線バスに代わる公共交通を地域住民と一緒に運営を実施する。



【路線別対象施策】

		対象			
		幹線	支線	地区内路線	港アクセス線
運行方法 の見直し	時間帯別運行の検討	○	○	—	—
	直通便・乗換え便の運行	○	○	—	—
	待合環境の整備	○	○	○	—
	予約型運行の検討	—	—	○	—
新規需要 の開拓	公共交通空白地区での運行	—	—	○	
	ノーマイカーデーによる意識啓発	○	○	○	○
	地域の協力による公共交通の運行	○	○	○	—
	地域住民の運営への参画	—	—	○	—

1) 運行方法の見直し

●時間帯別運行の検討及び、直通便・乗換え便の運行

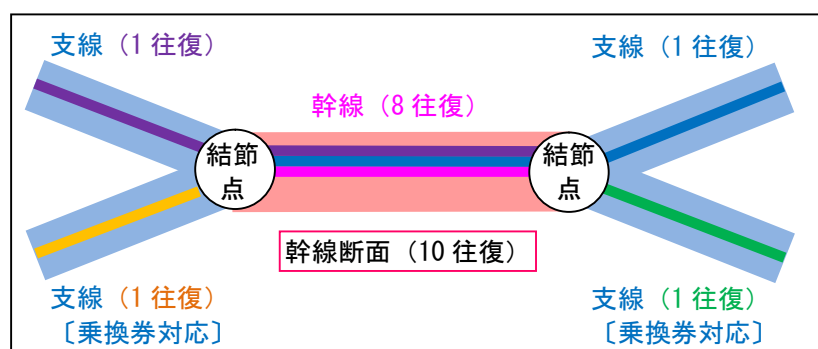
前述したように、時間帯別に利用者の需要が異なることから、需要に合わせた運行を検討する。

- ・朝の時間帯は利用者が多く、目的地も限定されていることから、直通便を運行することを基本とし、運行できない路線は、乗換え便で運行し、効率的に目的地まで行ける運行とする。
- ・昼の夕方時間帯については、需要が分散することから、運行距離が長くなる直通便の運行よりも乗換え便を設定し、運行の効率化を図る。

【朝の時間帯の運行イメージ】

現在の運行状況を考えると、全ての支線を幹線へ乗り入れることは困難であることから、結節点で、乗換券等を渡す乗換サービスを充実させることとする。

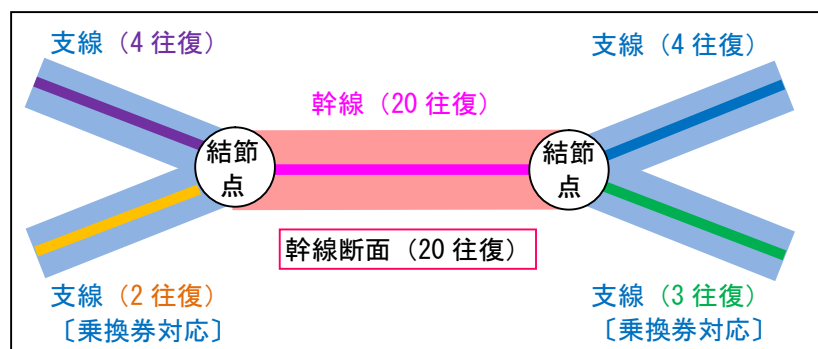
■運行イメージ



【昼・夜の時間帯の運行イメージ】

昼・夜の時間帯の運行は、結節点での乗換えを中心とし、接続・乗換券等の乗換サービスを充実させることとする。

■運行イメージ



●待合環境の整備

幹線、支線、地区内路線の結節点となる停留所では、乗車及び、乗換え便を待ち合わせている利用者に対して、風雨をしのぐ上屋等の整備を行う必要がある。また、バスを待っている際に、乗り換え情報や観光情報などを提供する場としても活用できるような、待合環境を改善する。



図 新潟市で整備されているバス停の上屋

●予約型運行（デマンド運行）の検討

今年度から実施するデマンド運行を参考にしながら、利用者の少ない路線について、定期運行からデマンド運行への切り替えの検討を行う。利用状況や、停留所の間隔等の現状を踏まえ、効率的・効果的な運行へ切り替える。

電話予約制乗合タクシーを運行します！
電話で予約すると「自宅からエリア内の目的地まで」 佐賀市役所交通政策課

1月3日から、「電話予約制乗合タクシー」の実証実験を3月23日まで実施しますので、是非ご利用ください。

電話予約制乗合タクシーとは？（タクシーと同じよ、違う点）

- タクシーと同じ点
 - 電話で予約すると、自宅又は自宅付近（構内、指定の場所）にお迎えに来て、決められたバス停まで運行します。
- タクシーと違う点
 - 同じ時間・同じ目的地方面の方と一緒に乗車します。（乗り合い）

運行日 平成24年1月3日～平成24年3月23日 ※土日・祭日は、運休となります。
運賃 中学生以上：300円 小学生：150円 ※定額のため、エリア内のどこまで乗ってもこの金額です！
小学生未満は、無料

サービスの利用方法・使い切り

事前登録	①乗録票の取入 登録票に利用したい方の必要事項を記入してください。	②登録票の提出 登録票を記入しましたら〇〇〇〇〇〇まで提出してください。	③乗録完了 利用登録が完了しました。登録後はいつでも乗合タクシーをご利用いただけます。
	①利用者 〇月〇日の〇時の家で〇〇時頃まで予約 電話予約の際に重要なこと！ ①利用日と時間 ②目的地	②予約センター <予約受付> 〇〇さんですね。 〇月〇日〇〇時の家で予約を届けたいです。	③自宅付近から

※乗録についても行先と同様に予約すれば、町や病院などから自宅まで乗合タクシーが運行します。

注意事項 ●お乗録料金は、ご利用人数や運行ルートにより、毎回変わりますので乗録に余裕を持ってお出掛けください。

- 予約受付
乗りたい日の7日前から1時間前までの間に受付しています。（時間：朝8時から午後6時まで）
（午前9時の場合は、前日の午後5時までにご予約ください。）
- 乗録料
乗りも利用したい乗客には、行きと一緒に予約するか、乗りたい運行時間の1時間前までに予約ください。
なお、乗録料への電話予約は出来ません。

- 6 -

図 両津地区でのデマンド運行（チラシイメージ）

2) 新規需要の開拓

●公共交通空白地区での運行

公共交通が運行されていない地区に対し、地域の需要や状況に合わせた公共交通を、幹線・支線までの運行することにより、空白地区の削減と幹線・支線の利用者の増加を図る。今年度は、両津地区で予約型（デマンド運行）の乗合タクシーの運行を予定する。

【実施予定チラシイメージ】

電話予約制乗合タクシーを運行します！
電話で予約すると「自宅からエリア内の目的地まで」佐渡市役所交通課直轄

1月3日から、「電話予約制乗合タクシー」の実証実験を3月23日まで実施しますので、ぜひご利用ください。

電話予約制乗合タクシーとは？（タクシーと同じ：乗込み）

- タクシーと違い
 - 電話で予約すると、自宅又は目的地（乗りは、指定の場所）に迎えに来て、決められたバス停まで運行します。
 - タクシーと違う点
 - 同じ時間・同じ目的地の方を一緒に乗車します。（乗り込み）

運行日 平成24年1月3日～平成24年3月23日 ※土日・祭日は、運休となります。

運賃 中学生以上：300円 小学生：150円
※定額のため、エリア内どこまで乗ってもこの金額です！
小学生未満は、無料

サービスの利用方法・使い切り

事前登録

- ①登録の申し込み
登録簿に利用したい方の住所を記入してください。
- ②登録の提出
登録簿を記入したら、0200-0000までお電話してご提出ください。
- ③登録完了
利用登録が完了しました。登録簿からいつでもタクシーをご利用いただけます。

利用方法

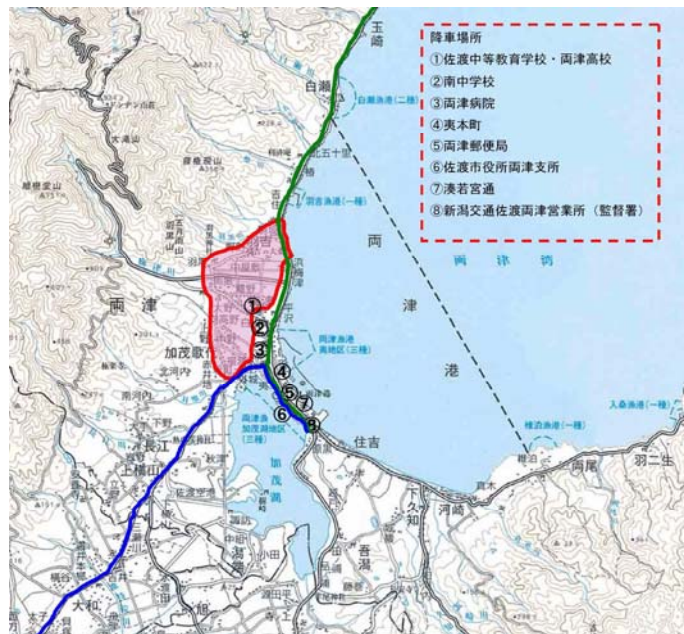
- ①利用前
電話で予約
0200-0000のダイヤルで予約
※電話予約の前にお申し込みください。
- ②予約センター
予約センターへお申し込み
0200-0000のダイヤルで予約
※電話予約の前にお申し込みください。
- ③自宅付近から
乗車開始
- ④目的地へ
乗車終了

※乗車についても同じように予約すれば、町や病院などから自宅まで乗合タクシーが運行します。

注意事項

- 乗車開始前にお申し込み、ご利用人数やルートにより、乗車開始までの時間には余裕をもってお出掛けください。
- 予約受付
予約受付は7日以前から1週間前までの間に受付しています。（期間：乗車開始から半日前まで）
（乗車開始の際は、前日の午後5時までに予約ください。）
- 乗車
予約未利用は1週間以内は、行きと一緒に予約するの、乗りたい運行時間の1週間前までに予約ください。乗車・乗車終了の連絡は不要です。

【実施予定地区】



●ノーマイカーデーによる意識啓発

これまでのノーマイカーデーにおいて、「相乗り通勤」が多く、公共交通に対する大きな利用促進にはならなかったが、このようなイベント等を継続的に実施し、意識啓発を行う。

【今年度のノーマイカーデーポスター】

【今年度のノーマイカーデーポスター】

マイカー通勤者を対象に！
エコアイランド 佐渡市

ノーマイカー day

実施期間 平成23年 7月8日 9月 各25日～30日

路線バス

ノーマイカーデーには是非、路線バスをご利用ください！

- 路線バス利用者には、期間中、バス運賃が1乗車200円となります！
※1乗車にノーマイカー参加登録が必要となります。
- 路線バスを乗換える場合には、1乗車100円となります！
※1乗車にノーマイカー参加登録が必要となります。

ノーマイカーデーにご協力をお願いします！
（お問い合わせ先）佐渡市地域公共交通活性化協議会事務局（佐渡市交通政策課 生活交通係内） ☎63-3184

●地域の協力による公共交通の運行

新規需要を開拓するためには、公共交通に関心を持ってもらう必要があり、公共交通は地域の足であることを再認識してもらうことが必要である。そのため、地域の方に公共交通の運行の一部に参加してもらう取り組みを行う。

【参考事例】

かわいい声で車内放送を

4月から 路線バス

保育園児、元気に収録

市内循環バス「かざぐるま」を運行する越後交通と、「ひまわり」（東市街地循環バス）を運行する越後柏崎観光バスは、4月1日から車内放送の一部を保育園児の声で流すことにし、2月26日には比角保育園（石口渉子園長）で「ひまわり」用の、今月1日には柏崎保育園（山本礼子園長）で「かざぐるま」用の収録を行った。

両社が市民に親しまれるバスにしようと提案したもので、「かざぐるま」ではソルトスパ潮風、潮風公園、元気館、アクアパーク入口、シーユース雷音の五カ所で、「ひまわり」では新田畑、松美町、柳田町、松美中央、比角保育園前の五カ所で園児の声が流れる。期間は4月1日から来年3月末まで。

柏崎保育園では1日、年長組26人の園児が「みなさま、ごじょうしゃ、ありがとうございます。つぎは、しーゆーすらいおん、しーゆーすらいおん、です」などと、停留所案内を元気な声で収録した。山本園長は「実際に園児とバスに乗り、放送を聴いて、家で練習して今回に臨んだ。緊張していたが、しっかり言えた」と話した。

事務局の市企画政策課によれば、有名タレントやアナウンサーによる車内放送はあるが、園児によるものは全国的にもあまり例がないという。越後交通でも初めての取り組みだ。

【2010年3月5日 越後タイムス】



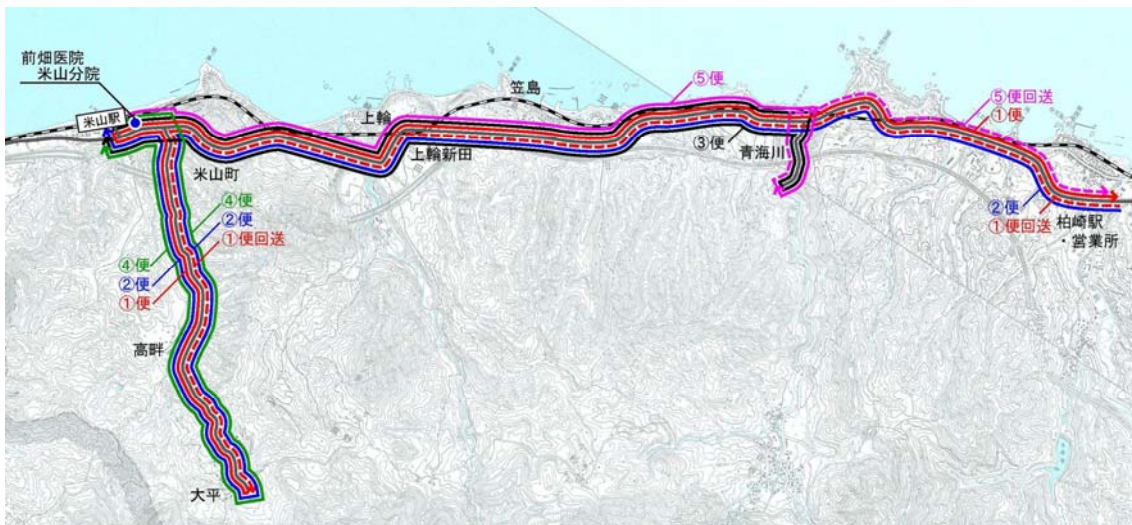
●地域住民の運営への参画

- ・地域に即した効率的・効果的な公共交通を運行し、公共交通の運行に対する意識の向上を図る。また、地区の需要特性に応じたより効率的で利便性の高い公共交通を実現するために、住民・地域主体の公共交通の運営組織の設立・育成を行う。
- ・運行するに当たっては、市の補助を受け、地域も負担も視野に入れる。

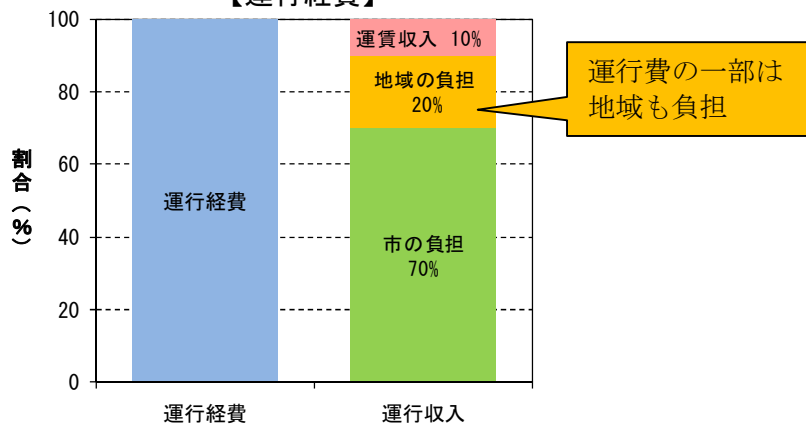
【参考事例】

・柏崎市の米山地区では、公共交通機関がないため、住民組織である地域のコミュニティ振興協議会が公共交通（乗合タクシー）を運営し、運行を交通事業者に委託している。

- 運営：米山地区コミュニティ振興協議会
- 運行業者：柏崎タクシー株式会社
- 運行車両：中型タクシー車両（輸送量が多い場合は、ジャンボタクシー）
- 運行内容：毎週火曜日（休祝日及び年末年始を除く）
- 乗車方法：前日の午後5時までにコミュニティセンターに電話予約（乗降場所、時間）



【運行経費】



平成 24 年の取組み

1. 支線・地区内路線の運行サービスの検証

- (1) 今後も路線バスを維持していくため、運行系統単位で収支率・平均乗車密度・一回当たり利用人数と運行回数・補助額を比較し、ダイヤや運行方法の見直しなどにより利用者の拡大と経費の削減・効率化を図る。

<参考>平成 21 年度 収支率・乗車人数

①東海岸線	(両津局前～片野尾～多田)	9.5% (489 人)
東海岸線	(両津局前～河崎～片野尾東)	2.8% (194 人)
②岩首線・学生車	(佐和田BS～畑野～出又橋)	5.7% (508 人)
③前浜線	(小木～羽茂・赤泊～浦津)	6.4% (699 人)
前浜線	(羽茂高校前～赤泊～蕨場)	10.9% (728 人)

- (2) 今後、統合予定の小中学校への路線バス通学ダイヤの実証運行や、交通空白地域の解消のための実証運行や通学・通院・買い物への利便性を検証する実証運行を行う。

事業費	調査・分析費	1,500 千円、	PR費・郵便料	1,000 千円
	運行費	・乗合タクシー実証運行		
		・学校統廃合等による路線バスダイヤ、運行ルート見直しに伴う実証運行		44,863 千円

2. 高齢者の外出支援と公共交通の利用促進

75 歳以上の運賃割引サービスについては、新規利用者より既存利用者が多いため、バス運賃減収の方が大きいですが、3年で制度が浸透してきていることや、サービスの存続を望む声が多いため継続して実施する。

事業費	調査・分析費	1,000 千円、	PR費・郵便料	3,500 千円
	運行費補助			20,000 千円

3. 観光二次交通の充実

利用の多い連休や夏の運行に限定したり、路線の延伸から既存路線の活用に転換するなど効率的に新潟交通佐渡で本格運行を目指す。

事業費	調査・分析費	700 千円、	PR費	600 千円
-----	--------	---------	-----	--------

4. ノーマイカーデーによる利用促進

市の取組みとして環境と連携し、公共交通の利用促進を目指す。

事業費	調査・分析費	700 千円、	PR費・郵便料	400 千円
-----	--------	---------	---------	--------

○協議会・幹事会経費	700 千円
合計	74,963 千円